

全国の社協職員 のべ7500人が被災地へ

この災害VCの活動や生活福祉資金貸し付けの支援に全国の社協から被災地へ社協職員が派遣されており、その数は4月8日でのべ7千500人を超えました。六栗市社協からも3月下旬、5月の連休中、そして連休明けと3回に分け、六泊七日の日程で3名の職員を宮城県南三陸町へ派遣し、災害VCの運営支援を行いました。社協が災害救援活動を行うのは、こうした日頃の地域福祉活動が原点です。



巨大津波で瓦礫の山と化した住宅地
(宮城県岩沼市)

災害時はだれもが 要援護者に

災害は、住民一人ひとりが長年かかって築き上げた生活を一瞬にして破壊します。今回の東日本大震災は、まさにそうでした。災害時には、だれもが生活課題を抱え、支援が必要な状態になることを理解しておかねばなりません。被災直後のライフラインが寸断された中で、公的な支援だけでは被災者個々が求める細やかなニーズには対応できない難しさがあります。また、生活再建が進み始めると必要とされる援助も変わってきます。高齢者や障がい者、低所得の方などは、生活再建や復興の過程で取り残される可能性が高く、長期的、継続的な生活支援に取り組むことが必要です。

今回の支援は長期間に 〜まずできるところから〜

今回の大震災は、被害が甚大で、原発事故も重なり、しかも広

域災害であることから、復興への道のりは相当長期となりそうです。その意味で、社協は、地域福祉の視点から震災に向き合い、今回もできるところから支援の輪を広げていきます。

4月2日から3日にかけて本会が行った宮城県岩沼市での災害救援ボランティア活動は、その趣旨で動いたものです。

善意銀行を災害時に活用

社協が行う災害時の救援活動の財源は、善意銀行預託金や災害救援活動の支援金です。一昨年の豪雨災害の時には、平時に皆様から寄せられた善意銀行のお金600万円を活用し、被災された皆様へ「お見舞金」としてお届けしました。また、県内の社協から「義援金」とは別に「災害救援支援金」としていただいたお金を災害VCの運営経費に活用させていただきました。

この経験から本会では、昨年度から1000万円を目標に「災害救援基金」を設け、毎年積

忘れてはならない 被災者主体の支援

被災地への災害救援活動で忘れてはならないのが、「被災地主体」「被災者主体」です。

支援側の都合でボランティア活動を行うのではなく、基本は「被災者主体」です。このことがとても大切です。

み立てをすることになっています。

6月の善意の 預託にご協力下さい

今回の被災地救援ボランティア活動の経費についても、善意銀行預託金の一部を活用させていただきます。

6月は善意高揚月間です。

六栗の地域福祉活動の財源づくりのために、また災害救援活動のために、善意銀行への募金をお願いします。皆様のあたたかいご協力をよろしくお願いします。